

文字もじ MOJI の世界

35. 文字が動く？えっ！ どういうこと。見てのお楽しみ。

片岡 朗*, 木龍歩美**

背景

バリアブルフォントとは、文字が可変するフォントである。2016年9月14日にApple, Google, Microsoft, Adobeが共同開発したもので、ひとつのフォントファイルでありながら、様々なバリエーションが無段階で切り替えられる。

現在ほとんどのブラウザでバリアブルフォントを表示することができ、Webでのあたらしいタイポグラフィとして期待されている。

2018年3月には、フォント制作アプリケーションの Glyphs がバリアブルフォントに対応し、個人でもバリアブルフォントを作ることが可能となった。欧文フォントはバリアブルフォントでリリースされているものも出ている。パリのオリンピック・パラリンピックの Web サイトにも Paris 2024 というバリアブルフォントが使われている。和文フォントでは、あまり見かけない。文字数が多く、字形も画数も複雑な漢字をシームレスに可変させるには、時間がかかる。また、太さや幅の変化は、便利ではあるが新しさに欠ける。どうしても差別化の表現をしたくなる。技術が便利になってきたとはいえ、これまでのフォント制作とは異なる労力と費用が必要になる。どう取り組むかの判断は難しい。

参考元

Introducing OpenType Variable Fonts

<https://medium.com/variable-fonts/https-medium-com-tirointroducing-opentype-variable-fonts-12ba6cd2369>

Adobe Typekit Blog

<https://blog.typekit.com/alternate/%E3%82%B3%E3%83%A9%E3%83%86%E3%83%AA%E3%82%BF%E3%82%BB/>

着目

砧書体制作所は、2020年4月6日にオーダーバリアブルフォントをスタートした。変化する文字は誰が見てもおもしろいし新しさを感じる。これまで Web 上で言葉を動かす表現は、GIF アニメなどモーショングラフィックとしてつくられてきた。見る方も動画を見ているという意識だ。それがテキストのまま実現できる技術を早く試したいと思った。

バリアブルフォントを個別に制作する、受注制作型のフォントサービス。変化させたい文字だけを収録してバリアブルフォント化するという発想である。文字数を多く要する和文フォントを、文字数を限定することで短期間・低価格・データ軽量での制作を可能とした。

テキストのまま形が変わる、言葉が変わる、マークに変わるなど、表現できる幅は広い。テキストなので検索にも引っかかる。発注者のイメージを実現するオリジナルフォント。例えば、ブランドのプロモーションのキャッチコピーや、企業のプロモーションなどに使うスローガンやロゴやマークを変化させ注目させる、など。日本語の Web タイポグラフィにあたらしい風となってほしい。

まずは特設サイトを先に見てください。

砧書体制作所

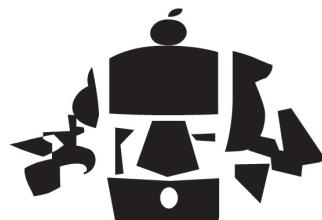
オーダーバリアブルフォント

<https://vf.kinutashotai.com/>



/ ' - - - /
- / - - - /
- - - - - /
- - - - - - -

なにもないところから文字が現れ、消えてはまた現れるループ。文字通り何かが始まる予感がする。



鏡餅のマークがスクロールに運動して「お正月」に変化する。右下のバーでも動かすことができる。文字以外にも変化が可能。

制作支社井

文字が太くなったり細くなったり、エレメントが伸びたり戻ったりのループ。文字がニヨキニヨキ動いていておもしろい。

月が綺麗ですね。

「月が綺麗ですね。」が“I LOVE YOU.”に変化する。画像をみてもお分かりいただけるように途中過程もおもしろい。

私のおばあちゃん

「私のおばあちゃん」が「まだまだ元気だよ」に変化する。見た人にしか伝わらないおもしろさがある。

仕様

納品したフォントは発注者の目的に対して自由に使用できる。媒体（Web, 映像, アプリ組み込み, など）の利用制限はない。

フォントデータ（WOFF 形式）で納品し、それをサーバーにアップして、CSS で指定する。ループで動かすことはもちろん、スクロールやバーで動かすだけでなく端末に応じて太さを変えたり動きを変えることもできる。スマホの傾きに応じて動きを制御することも可能である。詳しくは、サイトの Q&A に記載している。

制作の流れ

①打合せ②発注③試作作成（文字のデザイン・動きの決定）④バリアブルフォント制作・動作確認⑤納品

日程と金額は応相談、フォントデータは買い切りとなっている。更新費はなく、ずっと使用できる。発注は 1 文字から可能で、フォントの権利確認は砧書体制作所のフォントを使うのでクリアに使用できる。デザイン（マーク及びイラスト・タイプフェイスなど）の持ち込みは可能としているが、権利関係の使用可否を確認できているものに限る。サイト内 Q&A にスケジュールや金額例やライセンス、導入方法について記載している。

課題

フォントが新たな時代に突入していることは実感いただけると思う。

これまでにないフォントの新しい表現なので、どう判断するかは、周りの様子を見てからということになるだろう。これも実例が増えることによって解消していく。フォントも表現の世界、フォントとは、何か。その意識をどこに向けるかによってフォントも進化する。思いもよらぬコロナウイルスによって、フォントへの意識は希薄になつたりもする。物事の明暗は、運とタイミングによって簡単に左右される。しかし、フォントは、思いを伝える道具。何があっても元気でありたい。



* KATAOKA, Akira
砧書体制作所
〒 157-0073 東京都世田谷区砧 5-8-31 銀河 M42
** KRYU, Ayumi
同上
kinutaff@moji-sekkei.jp